

【通称:ひなデジ】



令和6年7月25日 生涯学習課

目的

全ての県民が、居住する地域・時間・年齢・障がいの有無にかかわらず、電子書籍を利用できる環境を整え、県民の生涯学習を支援する。

利用環境整備

① 様々なデバイス対応

・ パソコンや携帯端末等(windows,Mac, Chrome, Android, IOS)でインターネット経由(HTML5準拠)で閲覧できる環境の構築

② 県立図書館を窓口とした利用環境整備

・ 利用券と紐付けしたIDの配布
(一般県民向け)
・ 県立図書館システムとの連動で24時間利用と資料検索が可能

③ 希望する学校に利用IDを配布

・ 1人1台のタブレットで全児童生徒が閲覧可能

選書

① ニーズの把握

・ 学校関係者・一般県民等へのアンケートの実施

② 「だれでも」を実現する資料の収集

・ ひなた電子書籍収集方針の策定(読書バリアフリー法も踏まえる)
・ 複数の関係者で構成する「ひなた電子書籍選書委員会」の設置

③ 図書館レファレンス機能の充実



利用体制・促進の構築

① 電子図書館サービスに関する研修会・説明会等の実施

・ 事業説明、操作マニュアルに関する内容 (対象:県立図書館職員)
・ ひなた電子図書館サービス利用方法に関する説明会の実施
(対象:学校関係者)
・ 利用マニュアルの動画作成、配信
(対象:一般県民)

② ひなた電子図書館サービス導入時のPR

・ アンバサダー、メディアの活用

③ 電子書籍の活用に関する事例の情報収集・発信

・ 実践協力校の選定・依頼

県民の読みたい・知りたい・学びたいに応える生涯学習の実現

- 学校の読書活動や調べ学習・探究的活動等の支援
- 読書バリアフリーへの対応
- 非来館型の読書の充実や調査研究・課題解決の支援
- 不登校の児童生徒への支援

案

「ひなた電子図書館サービス」

通称：ひなデジ

令和6年7月25日 生涯学習課



様々な作家の
小説・ライトノベル等



子ども達が見たい
児童文学・絵本・図鑑



子育てに役立つ
育児書



いつでも
だれでも
どこでも
読める!



自己啓発・課題解決の
教養書や実用書



調査・研究に必要な
専門書



調べ学習・探究学習の
資料・参考書



宮崎を知る・学べる
郷土資料



文字の拡大、音が出るなど

読書バリアフリー対応



【今後の予定】

| | |
|----------|---------------------|
| 選書委員会 | : 8月21~23日 (いずれか1日) |
| プレオープン | : 8月30日 |
| グランドオープン | : 9月26日 |

子どもから大人まで



読みたいときは

県立図書館へアクセス!

1 目的

ひなた電子図書館サービスの導入にあたり、県民のニーズを把握することで、より県民や学校支援に寄り添う資料収集の参考にする。

2 期間

令和6年5月14日(火)～令和6年5月24日(金)

3 調査方法

Google フォーム

4 対象

- 一般県民
- 小学生(下学年)
- 小学生(上学年)
- 中学生
- 高校生
- 特別支援学校の児童生徒
- 学校関係者(幼・保、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会)

5 回答者数

3,913名

【内訳】

・一般県民(971名) ・小学生下学年(395名) ・小学生上学年(477名) ・中学生(426名)
・高校生(1,172名) ・学校関係者(472名)
* 特別支援学校の児童生徒の回答者数は、実態に応じてアンケートを選択してもらったため、小学生下学年～高校生の人数に反映されている。

6 調査結果 *詳細は別添資料参照

【一般県民】

・ 全体、年齢別、市町村別で見ても、日々の生活を豊かにする実用書や、文芸書のニーズが高い。

【児童生徒】

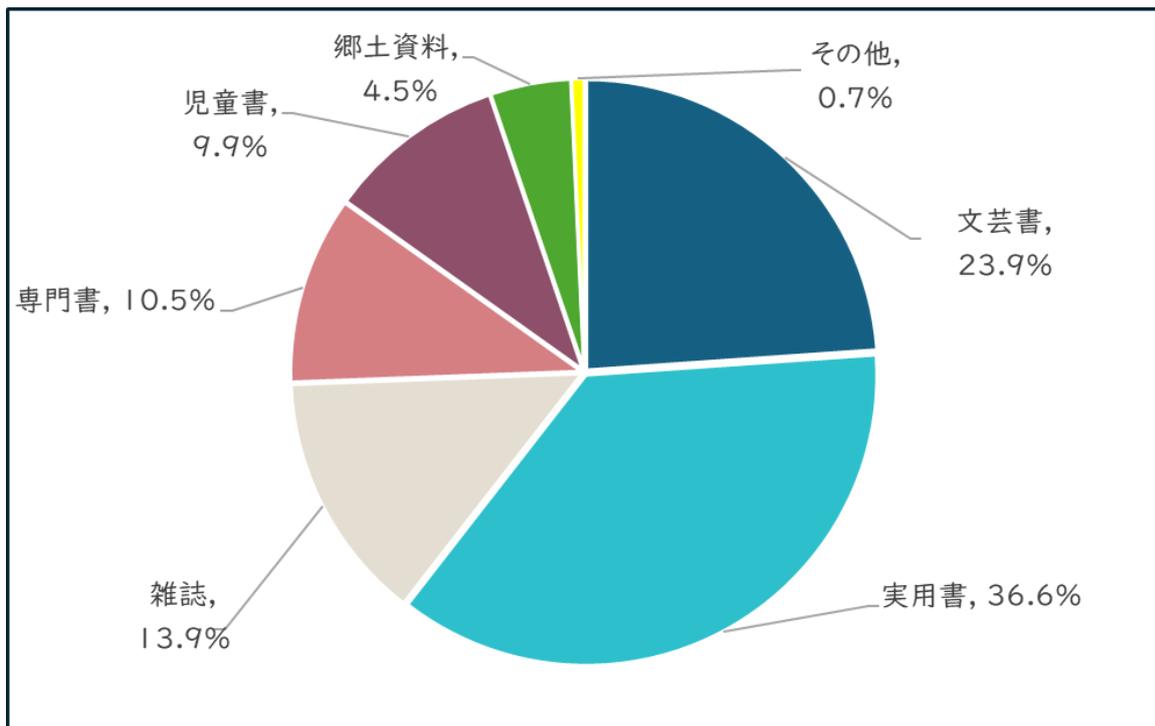
・ どの校種においても、物語・小説のニーズが最も高く、郷土資料のニーズが低い。
・ 学年が下がるほど、絵本や図鑑のニーズが高まり、学年が上がるほど生活に役立つ本(自分の興味・関心、課題などを調べる本)や進路本のニーズが高まる。

【学校関係者】

・ どの職種においても授業で活用する本のニーズが高く、物語・小説のニーズが低いなど、児童生徒のニーズと一部対照的であった。
・ 幼・保、小学校、特別支援学校の職員は絵本や図鑑が、中学校、義務教育学校、高等学校の職員は進路本のニーズが見られ、児童生徒の発達段階に応じた資料を求めていることが分かった。

一般県民対象調査結果 回答者数 971名

【質問】 あなたが、電子書籍で読みたい・活用したいジャンルを次のうちから2つ選択してください。



| ジャンル | 実用書 | 文芸書 | 雑誌 | 専門書 | 児童書 | 郷土資料 | その他 |
|-------|------|------|------|------|-----|------|-----|
| 回答数 | 711 | 468 | 270 | 203 | 193 | 87 | 14 |
| 回答割合% | 36.6 | 23.9 | 13.9 | 10.5 | 9.9 | 4.5 | 0.7 |

<全回答数:1946>

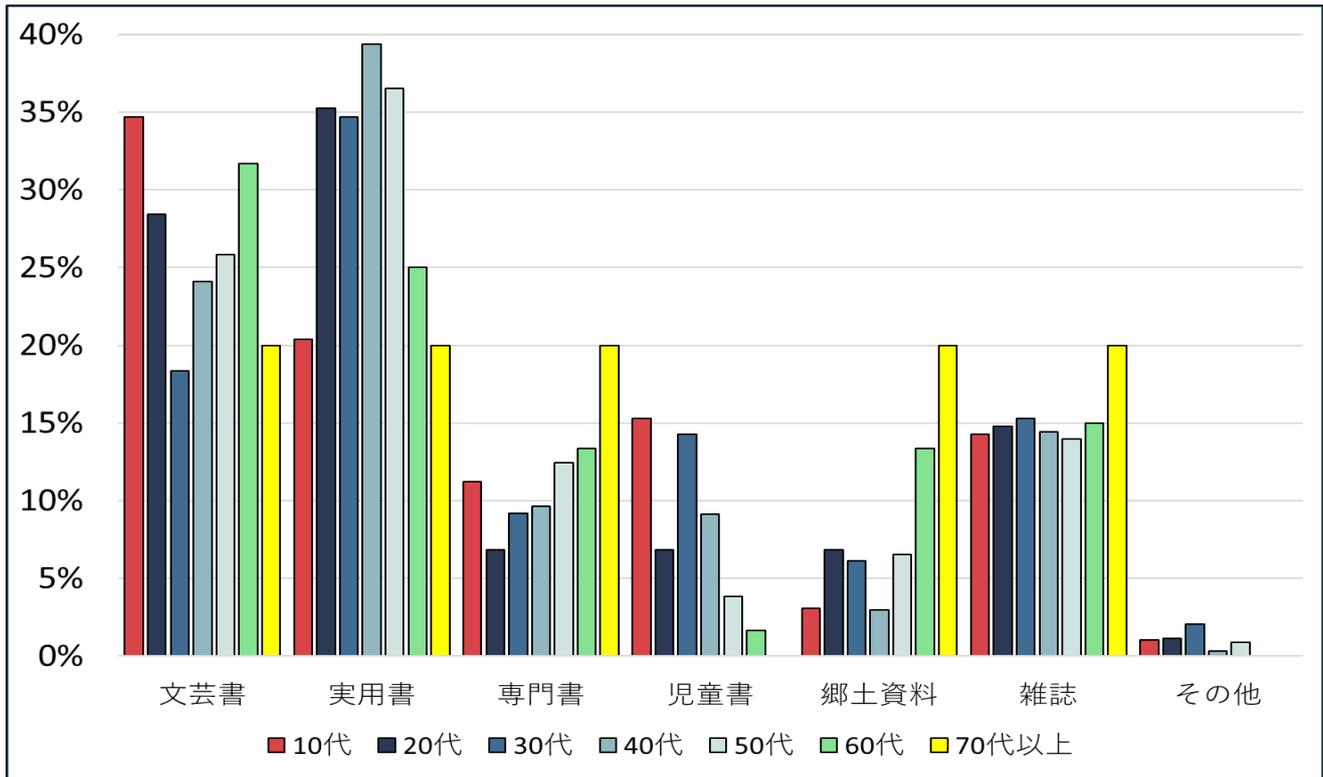
【その他の回答】

・漫画 ・統計に関する資料 ・流通に関する資料 ・歴史に関する資料

【調査結果から分かること】

- 趣味・育児・健康などの実用書、小説や随筆などの文芸書、雑誌の順でニーズが高いことから、生活に役立つ一般書や読みものを求めていることが分かる。
- 特に、実用書については、より多くの県民が求めており、対照的に郷土資料についてはニーズが低い。

一般県民対象調査 年齢別ニーズ分析結果



【年代別回答割合(%)】 * は最もニーズがあるもの は最もニーズがないものを指す

| | 文芸書 | 実用書 | 専門書 | 児童書 | 郷土資料 | 雑誌 | その他 |
|-------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 10代 | 34.7 | 20.4 | 11.2 | 15.3 | 3.1 | 14.3 | 1 |
| 20代 | 28.4 | 35.2 | 6.8 | 6.8 | 6.8 | 14.8 | 1.1 |
| 30代 | 18.4 | 34.7 | 9.2 | 14.3 | 6.1 | 15.3 | 2 |
| 40代 | 24.1 | 39.4 | 9.7 | 9.1 | 3 | 14.4 | 0.3 |
| 50代 | 25.8 | 36.5 | 12.5 | 3.9 | 6.5 | 13.9 | 0.9 |
| 60代 | 31.7 | 25 | 13.3 | 1.7 | 13.3 | 15 | 0 |
| 70代以上 | 20 | 20 | 20 | 0 | 20 | 20 | 0 |

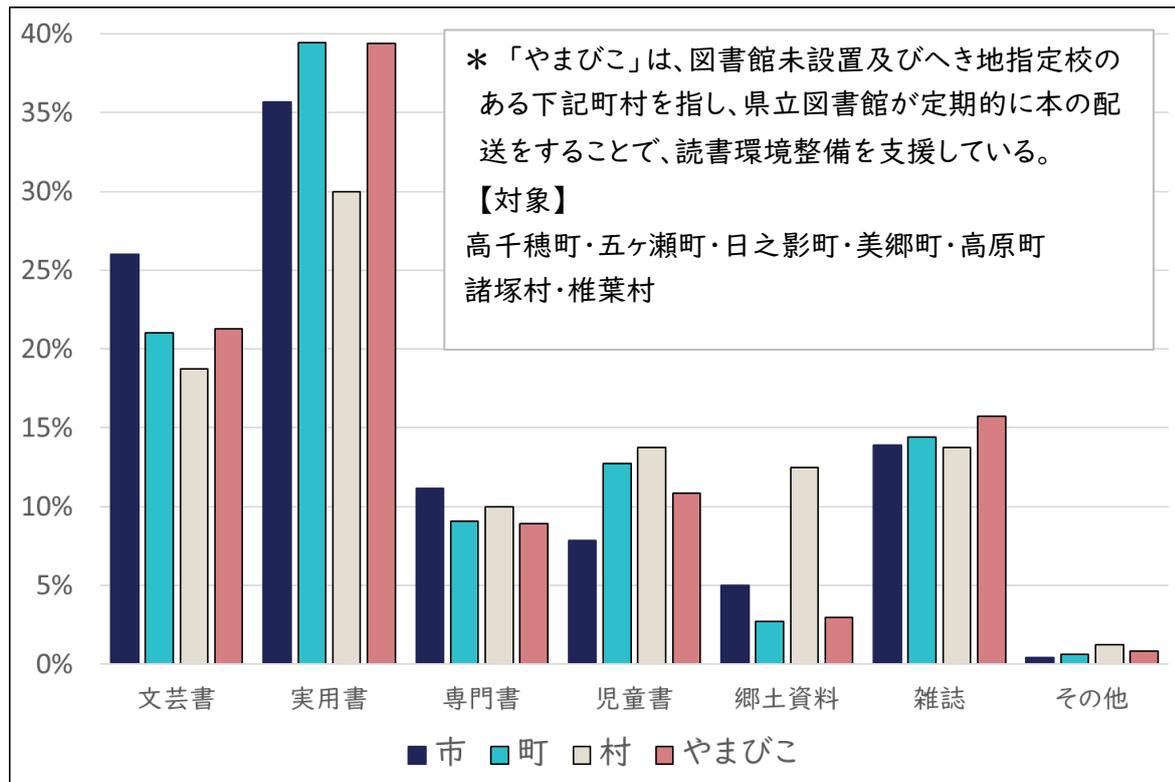
【年代別回答者数】

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 回答者数(人) | 49 | 44 | 202 | 472 | 169 | 30 | 5 |

【分析結果から分かること】

- 実用書は20代～50代で最もニーズが高い。
- 文芸書は10代及び60代で最もニーズが高い。
- 雑誌はどの年代でも平均的にニーズがある。
- 郷土資料は10代～40代では最もニーズが低いが、60代以上のニーズが見られる。
- 30代～50代の回答者数が多く、子育て世代のニーズの傾向が把握できるものとする。
- 70代以上の回答者数が少ないため、ニーズを十分に把握できたとはいえない。

一般県民対象調査 市町村別ニーズ分析結果



【市町村別回答割合 (%)】

* は最もニーズがあるもの は最もニーズがないものを指す

| | 文芸書 | 実用書 | 専門書 | 児童書 | 郷土資料 | 雑誌 | その他 |
|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 市 | 26 | 35.7 | 11.1 | 7.9 | 5 | 13.9 | 0.4 |
| 町 | 21 | 39.4 | 9.1 | 12.7 | 2.7 | 14.4 | 0.6 |
| 村 | 18.8 | 30 | 10 | 13.8 | 12.5 | 13.8 | 1.3 |
| やまびこ | 21.3 | 39.4 | 8.9 | 10.9 | 3 | 15.7 | 0.9 |

【市町村別回答者数 (人)】

| | 市 | 町 | 村 | やまびこ |
|------|-----|-----|----|------|
| 回答者数 | 545 | 386 | 40 | 235 |

* 町村の回答者数には、やまびこの回答者も含まれる。

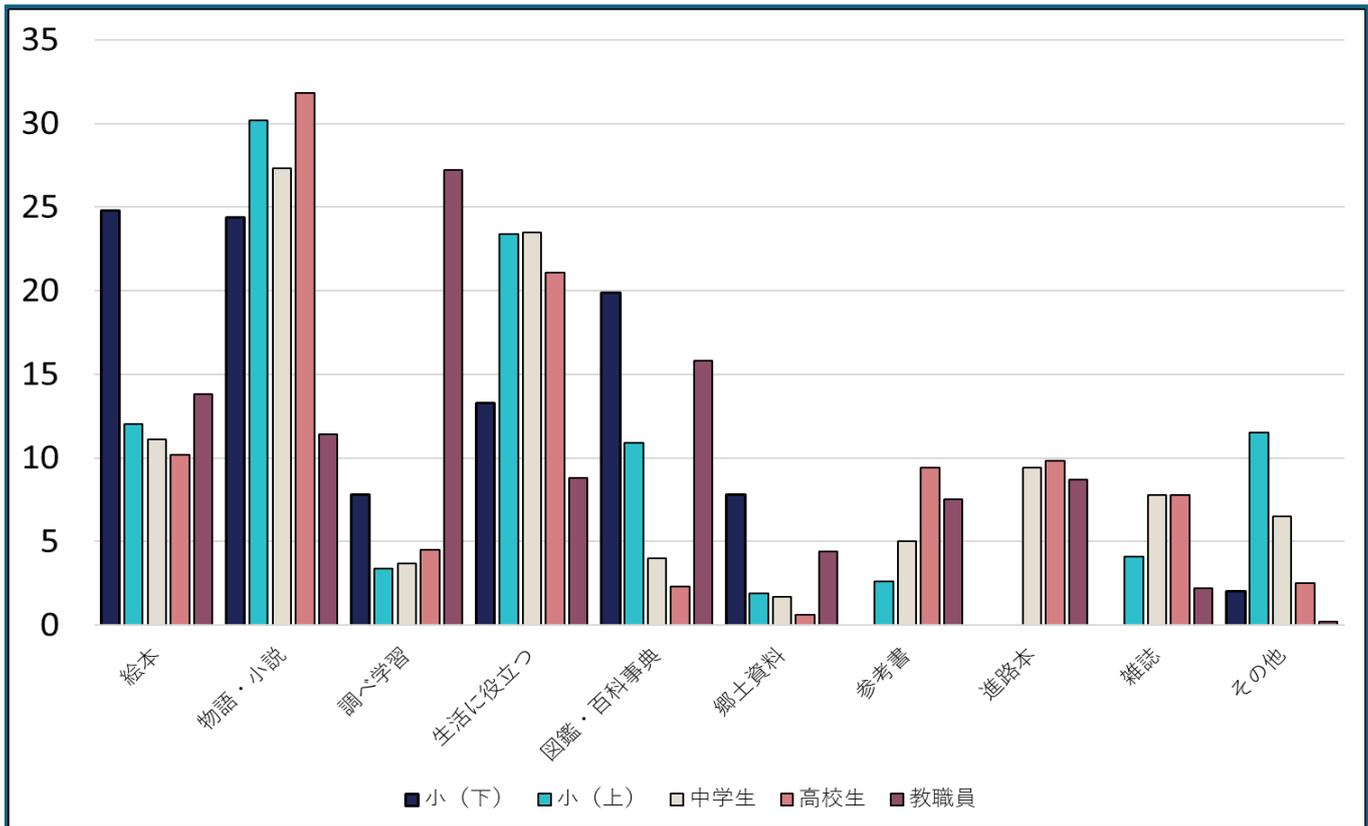
【分析結果から分かること】

- すべてにおいて、実用書が最もニーズがあり、次いで文芸書のニーズがある。
- 郷土資料は、村でのニーズが見られ、市・町・やまびこではニーズが最も低い。
- 雑誌は全てにおいて平均的なニーズが見られる。
- ニーズの傾向は、市町村別で見てもあまり差はないことが分かった。
- やまびこ対象地域の回答者数は235名であることから、県立図書館から遠隔地にいる住民のニーズは、ある程度把握できたものとする。

児童生徒対象調査分析結果

【質問】あなたが、電子書籍で読みたい・活用したいジャンルを次のうちから2つ選択してください。

(%)



【校種別回答割合(%)】

* 24.8 は最もニーズがあるもの 30.2 は最もニーズがないものを指す

| | 絵本 | 物語・小説 | 調べ学習 | 生活役立つ | 図鑑・事典 | 郷土資料 | 参考書 | 進路本 | 雑誌 | その他 |
|-------|------|-------|------|-------|-------|------|-----|-----|-----|------|
| 小学(下) | 24.8 | 24.4 | 7.8 | 13.3 | 19.9 | 7.8 | / | / | / | 2 |
| 小学(上) | 12 | 30.2 | 3.4 | 23.4 | 10.9 | 1.9 | 2.6 | / | 4.1 | 11.5 |
| 中学生 | 11.1 | 27.3 | 3.7 | 23.5 | 4 | 1.7 | 5 | 9.4 | 7.8 | 6.5 |
| 高校生 | 10.2 | 31.8 | 4.5 | 21.1 | 2.3 | 0.6 | 9.4 | 9.8 | 7.8 | 2.5 |

【校種別回答者数(%)】

| | 小学(下) | 小学(上) | 中学生 | 高校生 |
|------|-------|-------|-----|-------|
| 回答者数 | 395 | 477 | 426 | 1,172 |

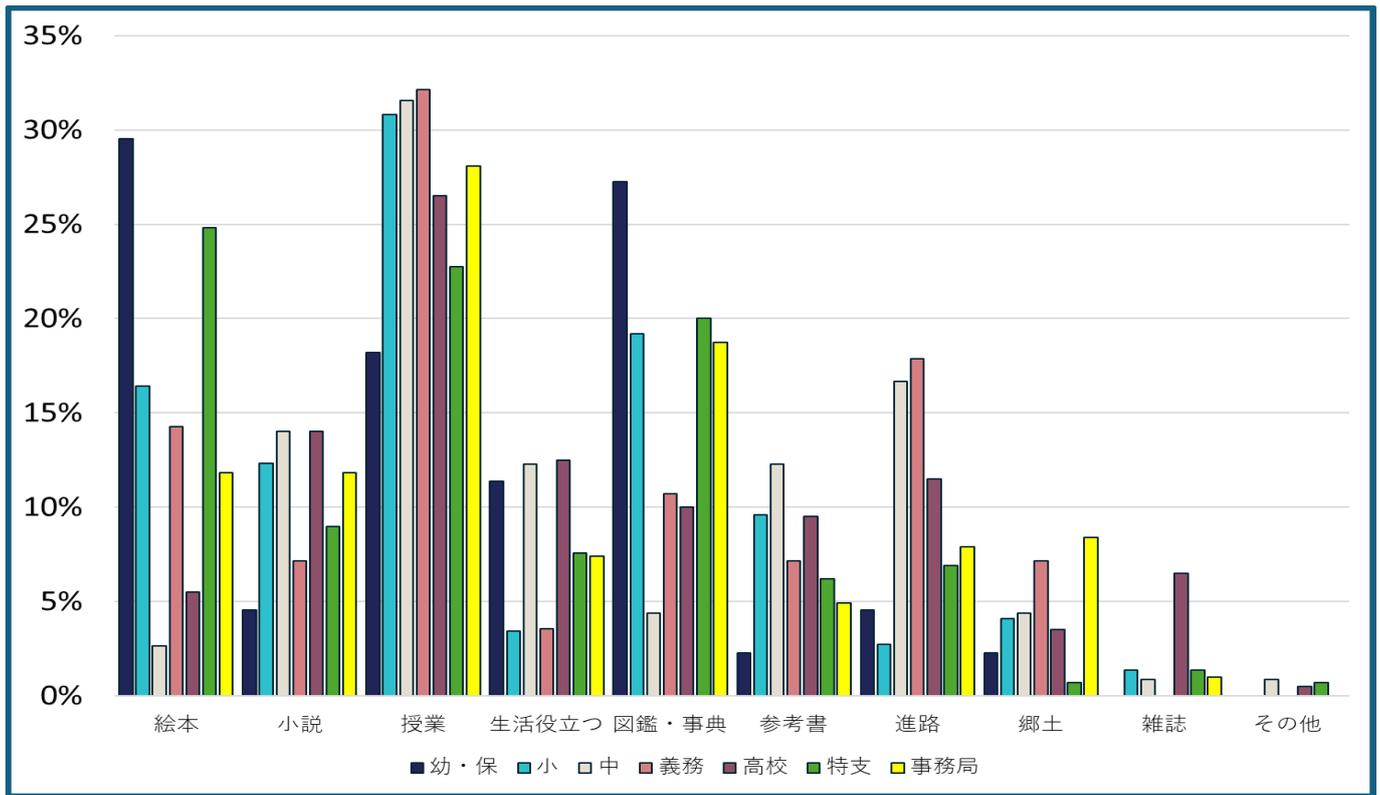
* 特別支援学校の児童生徒の回答は、実態に応じてアンケートを選択しているためいずれかの数値に含まれている。

【分析結果から分かること】

- 絵本は小学生下学年が、物語・小説は小学生上学年・中学生・高校生が最もニーズがあることから、全体的に読み物のニーズが高い。
- 生活に役立つ本(興味・関心のあることや課題等について調べるもの)は、読み物に次いでニーズがある。
- 郷土資料や調べ学習で活用する本のニーズはいずれも低い。
- 参考書や進路本は、校種が上がるほどにニーズは高まるが、全体的にニーズは高くない。
- 図鑑や事典は校種が下がるほどニーズが高まる。

教職員対象調査 所属別分析結果

【質問】児童生徒が電子書籍を利用するにあたり、どのジャンルの本があると良いですか。**2つ選択**してください。



【所属別回答割合 (%)】

* 29.5 は最もニーズがあるもの 0 は最もニーズがないものを指す

| | 絵本 | 物語・小説 | 調べ学習 | 生活役立つ | 図鑑・事典 | 参考書 | 進路 | 郷土資料 | 雑誌 | その他 |
|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|-----|-----|
| 幼・保 | 29.5 | 4.5 | 18.2 | 11.4 | 27.3 | 2.3 | 4.5 | 2.3 | 0 | 0 |
| 小学校 | 16.4 | 12.3 | 30.8 | 3.4 | 19.2 | 9.6 | 2.7 | 4.1 | 1.4 | 0 |
| 中学校 | 2.6 | 14 | 31.6 | 12.3 | 4.4 | 12.3 | 16.7 | 4.4 | 0.9 | 0.9 |
| 義務教育 | 14.3 | 7.1 | 32.1 | 3.6 | 10.7 | 7.1 | 17.9 | 7.1 | 0 | 0 |
| 高等学校 | 5.5 | 14 | 26.5 | 12.5 | 10 | 9.5 | 11.5 | 3.5 | 6.5 | 0.5 |
| 特別支援 | 24.8 | 9 | 22.8 | 7.6 | 20 | 6.2 | 6.9 | 0.7 | 1.4 | 0.7 |
| 県教委 | 11.8 | 11.8 | 28.1 | 7.4 | 18.7 | 4.9 | 7.9 | 8.4 | 1 | 0 |

【所属別回答者数 (人)】

| | 幼・保 | 小学校 | 中学校 | 義務教育 | 高等学校 | 特別支援 | 県教委 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|
| 回答者数 | 22 | 73 | 57 | 14 | 100 | 96 | 110 | 472 |

【分析結果から分かること】

- 絵本は幼稚園・保育園、特別支援学校の職員からのニーズが最もある。
- 調べ学習で活用できる本は、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・県教委の職員からのニーズが最もあるが、児童生徒のニーズは低く、回答のギャップが見られる。
- 物語・小説は、全体的にニーズが見られないが、児童生徒のニーズは高く、回答とのギャップが見られる。
- 雑誌や郷土資料は、いずれの所属でもニーズが少ない。
- 進路本は、中学校・義務教育学校・高等学校においてニーズが見られる。また、図鑑や事典は幼保・小学校・特別支援学校においてニーズが見られ、段階的なニーズが表れている。